

## 第 7 回天理市総合教育会議 議事録

開催日時	平成 28 年 1 月 22 日（金） 午前 9 時 30 分～10 時 45 分
開催場所	天理市役所 4 階 特別会議室
出席者	並河市長、森継教育長、田中教育委員会委員、中嶋同委員、 名倉同委員、前川同委員
欠席者	なし
事務局	山中公室長、木村総合政策課企画室担当課長、上村企画室長 松田主事
事務局側	藤井副市長、竹株教育委員会事務局長、冬木同局次長、 吉岡学校教育課長、新居崎同課指導主事、 西岡教育総務課課長補佐、土田同課係長、 上田総合政策課課長補佐（総合戦略担当）

### ◇会議次第

- 開会
- 市長挨拶
- 案件

1. 教育大綱の目標設定及び進捗状況の集約について
2. 平成 28 年度に重点として取り組む施策について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他

### ◇資料

1. 第 7 回総合教育会議席次表
2. 第 6 回天理市総合教育会議議事録（概要）
3. 教育大綱 担当所管一覧
4. 教育大綱の目標と取り組みの進捗状況<記載用>
5. 教育大綱 記載項目一覧
6. 教育大綱の目標と取り組みの進捗状況一覧

◇司会

<事務局 木村>

予定時刻がまいりましたので、第7回天理市総合教育会議を開催させていただきます。なお、前回に引き続き、議事録を作成する必要があるがございますので、本会も録音をさせていただきます。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。市長公室総合政策課企画室担当課長の木村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、並河市長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

<並河市長>

おはようございます。今年初めての総合教育会議になります。明けましておめでとうございます。丙申の年は今まで取り組んできたところを確認する年だそうでございます。その点から申しますと、これまでの総合教育会議は、大綱を作るということがメインテーマであったわけですが、大綱を作る段階からいよいよ来年度に向けて、どのようにこの大綱を実際の教育現場で活かしていただくか、またこの総合教育会議でフォローし、きちんとチームとしてやっていくことができるのかという段階になっていまして、本日はその方向性について、しっかりと委員の皆様方からご意見を賜りたいというふうを考えておりますので、長時間恐縮でございますけれども、よろしくお願いいたします。

<事務局 木村>

ありがとうございました。それでは、案件に入っていきたいと思えます。本日の会議は1時間30分以内の予定をしております。ご出席者につきましては、資料3ページに席次表をのせておりますので、ご覧いただけたらと存じます。また、資料の4ページから11ページにつきましては、前回の総合教育会議の議事録概要版を載せております。これにつきましては、事前にお目通しをいただいているものと存じますので、読み上げ等は省略させていただきます。

それでは、前回と同様、案件の議事進行は並河市長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

<並河市長>

それでは、議事進行を務めさせていただきます。まず案件の1でございます。先ほどご挨拶で申しましたけれども、この教育大綱を、各校です、どういふ形で目標設定していただいて、また進捗状況というところについて、私どもがどう把握していくかということが案件でございます。こちらについて、まず事務局から説明をお願いします。

<事務局 上村>

失礼します。資料がございますので、座って務めさせていただきます。前回の総合教育会議で大綱本文が決定したことに伴い、次の段階として、この大綱をどう活用していくのかというところのご意見をいただければと考えています。それには、まず各所管の目標や進捗状況を把握する必要があり、その方法等の案を説明させていただきたいと思っております。まずは、12 ページをご覧ください。大綱のそれぞれの項目について、直接関係する所管をまとめました。このそれぞれの所管別に、それぞれの項目についての計画や進捗状況を集約していきたいと考えています。その方法として、13 ページをご覧ください。本日は小学校の部分だけ資料とさせていただきます。本票を各小学校現場にお配りをして内容を記載していただきます。目標や現状の記載につきましては、教育大綱の本文についてだけの目標や計画ということではなく、その内容を含んだ少し広い目の項目を立てて、それについて記載していただきます。例えば、14 ページをご覧ください。一番下に④があると思いますが、下の欄が大綱の本文ですが、この文章に限定してしまうと回答できる現場が限られてしまう場合がありますので、「体力向上に向けた取り組みの推進」という項目を立ててあります。このように「教育大綱の文章ズバリの取り組みはしていないが、それに類する取り組みを行っている」などという場合は、その内容を記載していただきたいと思っています。それぞれの項目とその所管については22 ページにまとめてあります。26 ページの「人づくりと街づくりをつなぐ重点施策」につきましては、この内容そのものを実施していただくだけでありますので、広めの項目は立てていません。それでは、13 ページにお戻りください。記載票の説明を続けさせていただきます。まず、大綱の最終年度である平成 31 年度末の目標として「最終年までにこういう姿にもって行く」という部分、次に「そのために今年はこちらまでって行く」という今年度の目標、最後に「現在、こうなっている」という現状、これらをそれぞれ記載していただきます。今回は、資料が煩雑になりますので、小学校の部分だけしか添付していませんが、例えば、中学校なら中学校、学校教育課なら学校教育課というように、12 ページ資料の担当所管一覧にしたがって、それぞれにお配りをして記載していただきます。次に29 ページをご覧ください。さきほどの記載内容を横並びで一覧にまとめ、このような形として総合教育会議の資料としていきたいと考えています。13 ページの記載票に記載していただく時期については、年度当初と年度中1回、年度末の3回の記載をお願いしたいと考えています。以上です。

<並河市長>

ありがとうございます。こういった案を出させていただいた一つの目的は、大綱を作って「適宜読んでおいてください」ということであった場合は、いわゆる「積読」で終わってしまう、それではいけないと。でも一方で、パブリックコメントの際にいただいたご意見を見ても、各校で自主的に意欲をもって取り組んでいただいている部分も、非常にたくさんあるわけですし、それを「1 から 10 まで、箸の上げ下げまで全部言っ

くるのか」みたいな形になってしまっても、これは各校のモチベーションの部分であったり、我々と教育現場の関係上もよろしくなからうというところからすると、バランス的にどういう形がいいのか、或いは、こういう表で管理というようなこと自体に抵抗感があるところもあるかもしれませんし、「また余計な仕事が増えたな」「誰が書くの、これ」みたいな、いかにもありがちな議論も、想定はされる場所ですけれども、ただ我々としては「実際に（現場で）どういうことをやっていってくださるんですか」というところを踏まえて議論していくためには、やはりこういう作業は必要かと思います。

（記載票の中で）内容のところと大綱の記載をと分けて書いてあるのは、必ずしも大綱の本文 100% じゃなくても「大綱にあるのはこういう趣旨です、それを踏まえて自分たちとしてとしてどういうことをやっていきます」という、ある程度の自主的な部分を記載できるようにという意味です。上半分の「小1プロブレムの解消のための幼少連携」とかっていうその問題だけの記載とすると、少し大まかすぎるので、二つを提起したような形になっております。

このような方法で各校に（記載票を）配布するということについての皆様方のご意見をいただきたいと思います。或いはその各校から集めてきたものをどういう形で共有していったらいいのかというの、一つポイントかなというふうに思っています。29 ページ以降を全部配布するということでもないのかもしれませんが、いい取組などについては、共有というところも大事だろうと思っているところでございます。そのあたりの観点からいかがでございましょう、まず、現場感覚も踏まえながら、田中委員。

#### <田中委員>

市長がおっしゃっているように、現場は大変混乱するだろうと思います。「これ全部しないといけないのか」と思ったり、或いは、各学校それぞれに抱えている問題や課題を、来年度どう処理していくか、ということをもとめなければいけない時期に、こういう作業が入ってきますとなかなか整理がつかないのではないかという心配はいたします。まあ、当然していかなければならない課題もここにたくさんありますので、現場へはわかりやすく（作業の趣旨等の）説明をしていくべきだろうと思います。

また、できましたら、重点ポイントを絞り込んでいただいたほうが取り組みやすいのではないかと思います。例えば、小1プロブレムや中1ギャップの問題はどこでも抱えている問題ですので、連携の具体化など、こういった重点を絞り込んで、「とりわけここここは、きちっと記載して欲しい」というような形の方が取り組みやすいのではないかと思います。

#### <並河市長>

なるほど。「目標」という言葉でふわっとしていますけれども、「今年度、何をするのか」みたいな具体的な重点的取組をしっかりと書いてもらうように説明していくということですね。

<田中委員>

はい。それと「天理市全体で（取り組む必要がある）」と言っている小1プロブレムの問題などに対して「これとこれほどの学校の課題でもあるから、4年間の計画を立てて克服して欲しい」というように焦点を絞り返すと、先生方は書きやすいのではないかと思います。

<並河市長>

（大綱の中身については、各現場で）一切、今まで全く考えていなかったというものはないと思っていますので、それぞれの中で今まで実際取り組んできたこと、または来年度何をしていくかということ、ちょうど（そういうことを）考える忙しい時期だと今おっしゃっていただいたのですが、それらを整理する意味で、或いは校内で議論をしていくツールのような形で使っていただけたら一番いいのかなと思います。間違っても、例えば教頭先生一人が担当者になって、適当に書いているというふうになりますと、その方のデスクワークが増えるだけみたいな形になりますので、それでは何の意味もない。ですので、そこは重々留意しなければならないと思っています。これは教育長から校園長会の方に説明をしていくということでもいいんですよ。

<教育長>

はい。説明させていただきます。

<並河市長>

紙だけを配布するというのではなくて、丁寧にやっていただくということで。

<教育長>

事前に何人かの教諭から意見を聞かせていただきました。

<並河市長>

どうでしたか。

<教育長>

そんな反発はなくて、みんなで取り組んでいこうという考えは持っているのと、私は理解しています。けれども「やらされ感だけはくれぐれもないように」という意見をいただきました。

<並河市長>

教育長から皆さんにご説明いただくときには「（それぞれの目標や取組を）みんなで整理して行って、共有できた良い部分はどんどん取り入れていくためのもの」という形

で言っていただければいいのかなと思います。

<教育長>

このいろんな取組が次の教育大綱への一つの提案にもなるだろうということで。ほとんどがやられているものになりますし、また他校のものも見る機会もできますので。

<並河市長>

「他校のもの」ってどういうふう。

<教育長>

校園長会で共有しないといけないと。

<並河市長>

いかがでございましょうか、中嶋委員。

<中嶋委員>

事務局からの提案の中で「年度内3回くらいの集約」という話がありましたが、それはやっていくべきだと思っています。市長や教育長が仰っているように、今取り組んでいることを明確化していくツールにはなるとは思いますが、(現場の)仕事が増えると言ったらそれは減ることはないかもしれませんが、しかし、この(形の)教育大綱を作るといふ舵を切った以上は、やはりハードルとして取り組んでいかなければならないことだと思います。例えば、これが民間企業だったら「こう書いてあるんだけど、今年度、力を入れるのはここだけです」みたいな話は通じない。

箸の上げ下げまで言う必要はないかもしれませんが、ここに書いてあるようなことについては、各現場で何らかの取組はされていますので、失礼かもしれませんが、客観的に見るとその取組が見当違いかもしれませんし、他のことに効果を及ぼしているかもしれませんし、そういったことを記述することで今までやってきたことを見直して磨いていくというきっかけになると思います。ですので「これは考え中」とか「前の年の通り書いておく」ということではなくて、毎年毎年、きちんと積み上げて行って、4年積み上がった時に、その結果を見れば「やはり(こういった作業は)必要であった」と感じられるような内容にしていくことが必要ではないかと思っています。

事務局が仰った年度内3回というのは4月、8月、12月くらいになるのかなと思っています。4月には人事異動で人が変わってしまうということがあるかもしれないですが、それぞれの学校で教育目標のようなものは一本の筋が通っていますので、取り組んでいただきたいと思います。(現場にとっては)負担じゃなくて、必要なこととして、消化していくべきかと思っています。

<並河市長>

記載していただく時期は決まっていたのでしょうか。

<教育長>

決めていないですけども、新年度のことはやっぱり今年度に決めて、4月からスタートをきるというのは私の考えです。

<並河市長>

実際の教育現場のことを聞いて決めていただいたらどうかと。

その進捗がまとまったときに連動して総合教育会議を開いて「この取組はいいよね」「ここはもっとやってもらわないといけないよね」といった議論をしていくという認識でよろしいですよ。

<教育長>

書かれたものに対して議論するということはそれでいいと思いますけれども、学校現場としては、年度変わってから初めて計画を立てたとなれば出遅れるので、スタッフは変わるかもしれないですが、学校と生徒は変わらないので、まず決めてほしい。

<並河市長>

それは積極的に指揮をとっていただいて。

<教育長>

適当な時期に。

<並河市長>

いったんそれは教育長の方に。いつ、これを出していただけるかというようなことを。説明会はどうされますか。

<教育長>

説明会は、今日します。

<並河市長>

今日やるんですか。この年度内に、1回取りまとめていただくということに。

<教育長>

したいということですね。はい。

<中嶋委員>

今まででしたら、きっちり決めてからとりかかろうということになっていましたけれども、そうではなくて、やりながらまた変更していくということも大事ですね。

<並河市長>

そうですね。一回書いたら永遠に変えられないわけではないし、その目指していく方向がたとえ蛇行であっても、着実に向かって行っているということであれば、その時の状況によって、それは動いていっていいと思います。

負担という部分については、これを学校内で話していただくことで「目的やその思いと実際の取組を共有して、結果的には効率化につながるんだ」というような部分を、ぜひ、現場の先生方へ説明していただきたいなと思っております。私は、学校現場にいたわけではないのですが、同じ学校の中でも、先生方によって取り組んでいる内容というのは結構違う部分もあると思います。この先生は例えばICTとかをやりながらとか、こっちは先生はロールプレイングで、みたいに、それぞれに良いことをやっているという部分については、普段からよく共有し合いながら、お互いに学んでいただいているところもあるでしょうが、実はそれぞれがやっているだけというところもひょっとしたらあるのかもしれませんが。それをこういう形でそれぞれの課題について、我々がこの一年間議論した上で、全体を網羅するような形で、これは抑えておかないといけないだろうといったこととのバランスも考えながら作ったものなので、そういうことを整理していく意味では、表を埋めるという実際の作業というのはあるのかもしれないですけども、私は負担を増やすという発想ではなく、逆にこれをきっかけに負担を減らすという発想にぜひしていただきたいと考えています。

<中嶋委員>

私も、先ほどの教育長が仰った意見と全く同じで、是非その考えでやっていただきたいなと思います。

と言いますのも、学校訪問へ行って気になっていることが過去何度かありまして「私は校長先生になったのは初めてです」とか「園長先生になったのは初めてです」という発言を耳にします。学校訪問の中ですので、保護者や子どもはいないところでの、謙虚さからくる発言だということは分かるのですが、もし保護者や生徒が（その発言を）聞いたらどうでしょう。その子にとっての小学校1年生は人生に1回しかないもので、やっぱりそこについては、できるような形でお願いしたい。（学校の）内情については、これはあくまでもこちら側の話なので、そういうふうに進めていただければ非常に良いのではないかなと思います。

<並河市長>

名倉委員、いかがですか。



<名倉委員>

先ほどから話もありましたように、昔から続いている天理の教育というのは、これからもずっと続いていきます。この教育大綱ができたことには、今までの教育を具体化しているという意味がありまして、新しいことはありますが、継続事項が多くなっています。

<並河市長>

普通やっているだろうというようなことしか書いていないし、あまり突拍子もないようなことは書いていないと思う。

<名倉委員>

それで、それぞれの幼・小・中の行ってきたことを表に示すことで具体化していきますので、よりやりやすい方向に向けていけるのではないかと考えています。ですが、(できあがった)表を見させていただいた時に、記載内容のある程度の共通というのが必要ではと思っています。そんなに簡単に書かれる方はいらっしゃらないとは思いますが、先ほど田中委員が仰っていた重点ポイントは詳しく書いてほしいと。また、それぞれの幼・小・中の指針と照らし合わせて記入していただくことになるとは思いますが、その時にですね、記入の仕方によって、あまりにも内容がわかりにくくなってしまっているところや、すごく詳しく書いているところとかがあつては、まとめるにもちょっとまとめるににくいので、ある程度の具体的な、何文字とかまでは言いませんけれども、「ここは重点的に書いてください」とかいうものは必要かと思っています。その内容を見て事務局さんがまとめますので、そこはちょっとわかりやすく。

<教育長>

(一覧表には) そのまま (現場から) 提出されたファイルを載せるんですよね。

<並河市長>

一旦、まとめる形になりますね。

今、名倉委員が仰ったご意見について、私も、例えば記入例みたいなものを作ればどうかと、一瞬考えたことがありましたが、でも、そうすると、いかにも押し付けられ感が出てきますので、教育長から説明していただくときに「実際に取り組んでいる内容で力を入れているものをしっかり (書いて下さい)」としっかり言っていただければと思います。それでも、たぶんでこぼこは絶対できてくると思いますが、それがこの 29 ページの表で横並びで出てきたときに、「この学校はやることはしっかり書いてあるのにうちの学校はちょっと漠然としすぎたかな」というように、われわれがどうこう言うまでもなく、自ずから「ちょっとこれはまずいな」というようになるのではないかと思います。

<教育長>

まずは、一旦書いて貰って、一覧表にすることで気付きが出てくると思う。

<並河市長>

目標設定にしても何にしても、一回しか書いてはいかんというわけではないわけですから、場合によったら、一覧表としてまとまった時点で「ちょっと他に比べてうち具体的なもの全然ないね」みたいなところで差し替えるとかいうことがあってもいいかと思えます。ですので、横に並べるという形の表にするということで、そういう流れも作ってければと。

<名倉委員>

この記入に対しては、ある程度の時間を割いていただくのはもういたしかたないかと思えます。やはり、大綱が出来上がって、こういうふうに具体化して記入していただいて、この表を有効に使うためには、まず記入していただくことから始め、そしてまとめて、そこからまた現場に戻すという作業が大事ですので、この記入していただくという作業については、やはり学校現場の先生方には、負担はありますが、していただかないといけない作業だと思っています。

<並河市長>

ありがとうございます。是非、中で議論していただくという機会を設けてもらいたいと思っております。「埋めないで仕方ないらしい」「こんなにたくさん一人で書くのか」みたいな感じの雰囲気になるのは大変よろしくない。「ここは誰々、ここ誰々担当」となって、ガシャンと留めてバツと出すとか、そういう形ではなくて、各学校の先生方が、「それぞれの現場でまずは話す」というプロセスは是非大事にしていきたいと思っています。

<教育長>

学校評価という時間をとっておられるので、その反省もされて来年度どうするかという方針を出されるので、その時に、同じようにこれも学校評価の中に。また、来年度の予算に組み込んでいただければいいようにまた考えていきたいと思えます。

<田中委員>

学校評価の時に非常に困ったのは、報告は、パソコンを使いながらダーっとほりこんでいくという状況ですね。

<森継教育長>

義務（教育）の方はわからない。申し訳ないですけども。

<田中委員>

経験上ですね、学校任せにしてしまいますと、報告された側の混乱も起こるのではないかなと心配をしています。そういう意味で、一段ですね、校種ごとでこれについてどうするのかという管理職同士の話し合いをもつということは非常に大事だと思います。そして、現場に戻ってその説明を一斉にしながら、「うちの学校としてはどういうシステムでこれを作り上げていくか」という相談をされた方がよりスムーズに行くのではないかなと思います。

<並河市長>

各校の皆さんが横断的に一回意見交換なりをしましょうということでしょうか。

<田中委員>

一回しといた方が不安なく、そして、こちらが得たい資料になっていくのではないかなと。

<並河市長>

なるほど。

<中嶋委員>

よろしいでしょうか。私は建設業なのですが、例えば県とかで、建設関係のISOなどの説明があるときは、趣旨的なことの説明は技術者とか経営者に対してあるのですが、例えば「エクセルのホームで」とか「ワードのホームで」とかいう事務的なことは、それとは別建てで説明会をされたりします。もし、その田中委員が仰っているみたいなことがあれば、趣旨のレベルは校長先生、教頭先生に対して、事務レベルはまた別に、と、いうか、もしくはマニュアルを作ってCDで配ってもいいのではと思います。

<並河市長>

わかりました。前川委員いかがですか。

<前川委員>

教育だけではなくて、どんな取組でも目標を設定して取り組むということは大事な事だと思います。最終年度の目標、また、年度年度の目標、具体的取組を書きいただくということは、大変、私は意味あることだと思います。ただ、懸念するのは、初年度、二年度くらいは、それぞれ学校の教員もこのことを共有していきたくらうと思いますが、毎年、毎年繰り返していきますと、どうしてもこういうものは形骸化していく可能性が高い。それをいかに形骸化させずにそれぞれの教員が共有してこの取組を実行していくかということ、きちんと現場の先生方に理解していただくかということも大切なこと

だと思えます。

それと、この表については、それぞれの学校ごとに記載していただくことになるのだろうと思いますが、例えば、小1プロブレムの解消あるいは中1ギャップの解消というのはそれぞれの幼・保・小の連携あるいは小・中の連携ということの強化が大切なことだと思っています。そうしますと、それぞれの学校や幼稚園が小1プロブレムに対しての目標を立てた時に、やっぱり連携が大事ですから、目標がずれておったら、私はおかしくなると思うので、最終的な目標というものは、幼・保・小も、小・中も同じ目標があってしかるべきだと思います。最終的にどういう形でまとまってくるのかわからないですけども、バラバラになってしまわないように、目標については最終的にどこかで取りまとめをしないといけないと思います。

<並河市長>

今、前川委員が仰っていただいたまさにそのとおりだと思います。先ほどの「管理職同士が話し合っ」という話では、例えば西中に行く小学校は始めからわかっているわけですし、幼稚園でも次はどここの小学校に上がっていくかということはわかっているわけなので、その共通目標の部分で、ぜひ、双方で話し合っただきつつ、その中で「じゃあ小学校側としてはこれをやる」「中学校側としてはこれをやる」という形で次年度の目標や、今年度の取組の進捗状況を書いていただくという形が一番ありがたいので、特に中学校区の部分と、あとその小学校に行く幼稚園との関係性というところについては（現場への）説明の時にも加えていただいた方がいいと思います。

あと、形骸化というのは、よく行政評価なんかでもよくあるパターンで「毎年、同じものを出しとけ」みたいな。今回は、9校区分を横に並べていきながらそれぞれの進捗を見ていくというところがひとつの味噌だと思っております。その中で、取組が進んできた、それぞれの学校でどういう成果なり、形になってきているのかということは見えてきますので、それを総合教育会議の中でお互い見ながら「ここ、こんな取組をやったら、上がっているじゃないですか、実際に」というような投げかけをしっかりとやっていくというのが、マンネリにならない重要なポイントだと思います。実際に学力試験みたいなものもあるわけですからね。

<森継教育長>

今、指摘いただいた連携の方ですけども、中学校区ごとで取り組んでおります。小中としておりますので、だから、校区でもったら同じようなものがでてくると思います。

<並河市長>

自治体によっては「今の点数よりこれだけにする」、あるいは「不登校の率をこれだけにする」とか、何かの数値的なものを目標として立ててくるところもあるのかもしれないですけども、それは、私自身も教育という性質上、その時、その時の子どもの状

況もあるわけですし、あまりそぐわないだろうというふうには思っているところです。だからといってマンネリになってもいけないので、そこは我々の中で、表には出さないけれども、やっぱり成果として評価するポイントはこういうところだということを、まずこの総合教育会議のメンバーが共有したうえで「ここはよくやっているな」と、「ここはもうちょっとがんばってもらいたいな」とかという部分を日頃の教育長のご指導につなげていただけたらいいのかなというふうに思います。

<森継教育長>

この一覧表があると、また視察の時に持って行っていただいたら。

<中嶋委員>

私がちょっと気になっていたのは、(この表は)教育委員会の内部資料とするのか、一般市民にオープンにするのかで趣旨が全然違ってくるということです。両方あってもいいかとも思いますが、学校の学力テストですか、あれと一緒に学校の競争というよりもですね、学校の現状を出して、課題となっているところとこれから取り組むべきところを出していくというところが大事だと思うので、できていることはもちろん書いていただいて、ここの学校ががんばっているんだなど、ここは力を入れているんだなど。ただ「ここは取り組んでいるんだけどもうまくいきませんでした」ということも書ける状況のものが必要じゃないかと思います。

<並河市長>

その整理は非常に重要ですね。

<中嶋委員>

そこをやっぱりできるようにしないと。先日の教育委員研修でも、いじめの数字が上がったり下がったりするのは、「いじめは基本ダメですよ」というところの中でことでしょうが、今回でも「できるのが当たり前」ではなくて、「できないところも当然あるでしょ」という部分の中で船を出さないと、いい事ばかり書いていると、それこそ形骸化になってしまう。

<並河市長>

「うちはあるなことでできてます、こんなことでできてます」という「できてます大会」になってきたときに、こちら側の課題が見えてこないというか、実はまだここが弱いところを把握して、一緒に解決に向かって、この総合教育会議を取り組んでいかななくてはいけないところからすると、この 29 ページ以降のやつを全て公表すると、そういうしんどい部分というのが書けなくなってしまうので、一旦、そこは表に出さないという仕切りでよろしいでしょうか。

<森継教育長>

「できてます」というか、しようとする取組を書いていくわけですよね。

<中嶋委員>

しようとする取組はいいですよね。進捗状況の方ですよね。結果的にというところですよ。

<並河市長>

(取組に関わることのできる)人数だとか、予算的な事で、ああだこうだというところもあるのかもしれませんが、「うちの状況としてはここが弱い、もうちょっとここは来年度に向けてやらないといけないんじゃないか」とかという、本音の部分の進捗じゃないと、なんとなく「できてます、これやりました、やりました、やりました」ばかりがいっぱい並んでいたら、大いにごんばっていただいているなというところで終わってしまって、じゃあすべてが順風満帆なのかというようなその辺の肌感覚はわからなくなってくるところがあると思いますね。

<中嶋委員>

目標とかですね、やりたいこと、やっていくべきことというのは教育長が仰るように、これからやっていくことはどんどん書いていくべきだと思います。ただ、その結果については、例えば、テスト勉強はしたけれども、「結果、点数が悪かったです」というところまでは、外へ言わなくても、中でその原因を考えていくというような、中の部分と外の部分がないと、本音が出てきにくいのかなと思います。

<並河市長>

できたら本音で「取り組んでいる現状としてはまだまだこの部分が弱い、不足だ」とか、「ここはまだ現状の段階ではしんどい」みたいなどころを書けるような前提である方が、我々も問題意識を共有できるのかなと思います。

<名倉委員>

目標は、目標を、進捗状況というのは現在のありのままを書くために、こういう欄があるわけですので、そういう懸念ってありますか。

<並河市長>

「こういう形で教育大綱を作りました」、で「各校に取り組んでいただいています」という以上、何も公表しないというのも、おかしな話だと思っています。この9校区全部の一覧表の形で、年3回ということではなくても、今、実際に市内の学校ではこういうことを取り組んでいますというのは、この教育大綱に沿った天理市の進捗状況という

ような形を出して行かなければいけないだろうと思いますね。

<名倉委員>

大筋の文章ということですね。

<並河市長>

そうですね。ただ、それを書く側からすれば『これ、やってるんですけど、まだ成果があがらなくてしんどいです』みたいなことが、まるまる表に出るのか」みたいな気持ちの中では、ちょっと本音ベースで書きづらい部分があるはずなので、そこはまず内部の資料であるけれども、そこからある程度抽象化したような形のもので市民の皆さんに説明していくということが必要になるのではと思っています。そこは二段構成かどうかと。

<田中委員>

地域にはいろんな課題があって、どんな教師が行っても、その課題克服のために頑張る。学力を上げるというのは当たり前のこと。教師が全て同じ教師ではない。したがって現場では、教師の資質を上げながら教育視点をそれぞれ考えて、それぞれ取り組んでおられる。今、こういうような目標を立てた、しかし、それができないという原因はどこにあるのかというところを、我々は知ってもいいけれども、地域や一般に出すということについては、あまりよくないと思います。したがって、今、市長が仰るように、課題はどこにあるのかを明確にしながら「その課題克服に向けて、こんなことを今考えてますよ」ということはどんどん提供すべきで、そこに主眼を置かないと。

<並河市長>

仰るとおりで、何も、都合が悪いから出さないという発想ではなく、課題は課題としてしっかりと見ていくと。ただ、もう少し抽象化した形でどういうふうに出していくかというところは、まず、とりまとめてみた段階で考えるのかなと。あまり特定され過ぎる形でも難しいでしょうし。

<森継教育長>

個別に学校と話をする機会もありますので、その面談の時に聞かせていただいて、皆で相談をさせてもらうということで。進捗状況については、何がしか書いてもらうことになることになると思う。

<並河市長>

副市長、どう思われますか。

<藤井副市長>

やっぱり目標というのは、やはり出していかないといけないと思います。実際、その保護者の方にしてみても、市民の方にしてみても、せっかく大綱まで作って、どっち向いて、どうしていくかというところが見えないと、お互い課題共有もできないと思います。ただ、進捗状況を表に出すというのは、それぞれ個別の問題もありますので、それは控えて、それはまさにこの中で PDCA サイクルのチェックが必要なのであってというところで。

<並河市長>

そうすると、目標（最終年度）というのは、正味の目標で、真ん中の欄では目標（今年度）となっていますが、これは目標と具体的取組ということなんでしょうね。

<藤井副市長>

そうですね。それで、具体的取組のところと目標を並べることによって、どうしてこれをやっているのかというのが、保護者の方もわかってくると思うので、そこは積極的に書いてもらったほうがいいのかなと。

<並河市長>

そこは、表の部分で整理を。

だいたい、意見も共有できてきたのかと。

はい、どうぞ。

<田中委員>

今、小中連携なり、幼小連携については、夏休みに集まってされていると聞かせていただいているのですが、部署が違うというテーマがありますね。いわゆる、児童福祉課と。

<並河市長>

小1ギャップを保育所の方ではどうするのか、ということですか。

<田中委員>

はい、そうですね。児童福祉課と生涯学習課と学校教育課が重なる課題があったとして、その課題について、例えば夏休みにその場に一緒に来ていただいて、交流をするという部分も、活用の部分では大事ではないかなと、それも検討されたいかがかなと思います。



<並河市長>

教委の中に幼稚園は入っているわけですし、その小1ギャップの取組でも、比較的そこは同じ部署同士が見ているわけですが、保育所から来る子は小1ギャップに苦しんでいいわけではないわけで、同じように小学校側として対応できる部分があれば、やっぱりやるべきだ、というところを我々が繋いでいかないといかんという。

きわめて、重要なご指摘だと思います。それが、総合教育会議という形で市長部局と教育委員会とが一緒になっているひとつ重要な理由でもあるかと思います。

<中嶋委員>

市長、教育長と我々教育委員が話し合うというのは、それ自体が目的ではなくてですね、そうすることによって、今までだったら、市長部局と教育委員会が分かれていたところがあったかもしれないけれども、実際に部局同士のつながりが深まるということも、非常に大事だと思います。

この12ページに非常にわかりやすく書いていただいているのは、例えば(1)の②とかでしたら「学校教育課で各幼稚園と小学校と児童福祉の共通の課題ですよ」と書いていただいていますので、こういった、教育委員会とそれ以外の横のつながりが滑らかにいくように、組織として次年度以降、動いていただくことも考えていただきたいと思っています。

<並河市長>

12ページに書いてある表がありますけれども、今現在、うちの事務レベルとして、これのワーキンググループみたいなものはちゃんと動いていっていますか。

結局、各学校に投げていったとしても、それをきちんと繋いでいく側の、市行政の各担当部署の12ページのところでワーキンググループ的にちゃんと動いていかないと、ここだけで話をしても上滑りしてしまうということになりかねないと思います。そんなにしょっちゅう一元化していてもみなさん大変だと思いますが、やっぱり、それはやらないといかんでしょうね。

<中嶋委員>

特に児童福祉とかでしたら、今、学童の関連とかもすごくありますし、その中で、私がこの当初から違和感があったのは、児童福祉が学校の校舎とか敷地を借りるとか、そういうことではないので、児童福祉はあくまでも市役所の部局ですし、学校は学校の施設なので。

今、国のレベルからですね、厚生労働省からだけという事ではなしに、放課後の開放も含めてですね、もっと自由にオープンにやっぴいこうとなっているので、他の市町村みたいに子ども課がないからダメとかそういう話ではなくて、今の状況であっても風通しをもっともっとよくして行って、一緒にやっぴいいくこととか、やっぴいいくべきこともた

くさんあると思います。

<並河市長>

世の中の趨勢からすると、子ども課的な感じで一本にくっつけてしまっているところがあるのも事実です。でも、子ども課が全部中学校までやるわけではないので、そこはまた機構のことを考えないといけないですけれども、大事なのはしっかりと連携できるかどうかということなので、そこがこの大綱をとりまとめた意味ではないかと思います。それをうちの中でも、総合政策なりの担当が、来たやつを一生懸命コピペしてとか、あるいはそのこの丸がついている部分だけを担当の人が見るということじゃなくて、一堂に会してフォローをする必要があると。ですから「これをまとめていく」、「その進捗状況のペースに合わせてこの総合教育会議を開く」、「総合教育会議を開くちょっと一步手前のところで準備的にワーキング会議をやって、そこで確認をして、これに臨む」みたいな流れになった方がいいと思います。

公室長とか、局長とか、ご意見ありますか。

<事務局 山中>

もともと、今、政策間連携とか求められていますし、それぞれの事を目指していくときには、これも一律に丸を打っていますが、当然、主たる担当課があると思います。主たる担当課が一番認識をして、自分ところの目標を達成するには、役所内のどこと協力しなければならないかということ等を常に頭に置いていただいて、それぞれの何かの会議であったり、いろんな調整する場において、ここはこの話がでるので、どこの課には来てもらわないといけないという認識をしてもらったら、改めて一回一回、会議ばかり設定していても時間ばかり取るだけなので、そういう認識の下でやる方がいいと思います。今までのように「教育のことだから、教育委員会にまかしていい」という、呼ばれる方はそういう認識をもっていたらダメだと。主担当課は、ここを協力してもらわないといけないから呼ばなければいけないと。お互いにそういう認識さえ持っておいたら、調整はいけるのかと思います。

<並河市長>

関係している部分が限られるところもありますので、全部の課が来なくてもいいと思います。ただ、コアな部分については、特に連携ものとして求められている項目だけでも、事前にちょっと話をしておいてもらったほうが、より機能的かなというふうに思いますが。

<中嶋委員>

公室長、仰ったみたいに、会議は会議でする時にはした方がいいと思いますが、日ごろが大事なので、今まででしたら、教育委員会に任しておいた方がいいという信頼関係

の部分もあるかもしれませんが、逆に言えば、教育委員会に口出ししにくいというところもあるかもしれませんが、そういうことではなくて、この教育大綱に書いている教育に関することは、市長が仰っているチーム市役所で、全体でやっていくのだから、サッカーのパスを出しているようなものですよね。全体の会議は会議でやるんですけども、(日ごろの)小さいパスを出し合いして、横の連携をとっていただいたら。

<並河市長>

今、公室長が指摘してくれたように、準備会議を屋上屋を重ねるみたいな感じで形式的にやって、その時に関係各課長が全部でてきて、総合政策課長が「みなさんご多用の中お集まりいただきまして、それでは準備何とか会議を開きます」とかなんとかで、一から全部読んでいってみたい、形式的なものを求めているのでは決してないと。

<森継教育長>

市長がよく仰る、横串というやつですね。

<並河市長>

「特にこの項目は事前にちょっとでも関係課でしっかり練っておいた方がいいのでは」というところだけ抽出して、特に小1ギャップの話は典型だと思いますが、そこをコアのメンバーでだけでもやってもらうという方が効率的かなと思います。「同じ小学校であっても幼稚園の方はこういうことをやっているのに、保育所のほうはノーケアか」みたいな話になったら、これはまた市民の皆さんからしたら「これ、どうなっているのか」ということになりますので。

<田中委員>

私が言っているのは、実践の部分でつながっていかないといけないということで、会議でどうのこうのは必要ないと思います。

<藤井副市長>

そこは形式的な部分で、結局、みなさんご覧いただいているこの紙が大事だと思うんです。次のこの目標設定であったり、進捗状況の紙を作るときに、縦だけでその課を見るんじゃなくて、横のラインで見ていただきたいです。みんな並べて、見ていただいたということをやっていけば、さきほどの会議を持たなくても進んでいくと思います。

<並河市長>

あるいは、そのスポーツを活かしてとか、文化を活かしてみたいな項目もあったりするので、丸がついている所はお手伝い感覚ではなくて、全部自分の所管だという意識の下で取り組んでいく必要があるし、それが結局それぞれの施設なりを充実させることに

も本来つながるわけです。「図書館本体業務は」などとそういうことではなくて、これで行っていくことで、図書館との距離感が縮まって、より多くの子どもが来てくれるようになると、まさに本体業務自身を盛り上げることに繋がってくるはずなので、そういう意識付けの下に行っていくということが大事かと思えます。

時間的にはずいぶん経ってしまったわけですがけれども、実は案件2の方も、ほぼ話したのではないかと考えていますがどうでしょう。あとは教育長の方で、いつ進捗状況を行ってもらうのか、というところを決めていただいて、次の日程、来年度の会議の設定するタイミング、あるいはひょっとしたら始める前の段階でも、各校に説明した段階でいろいろ意見が出てくるかもしれないので、それを踏まえて、じゃあどういうふうにするかという修正も必要になるかもしれませんので、そこはそういったことでよろしいんですね。

案件2まで含めて、まだ言ってないよとか、あるいは案件2は28年度というところで特に書いていますけれども、事務局の方から何か、皆さんに協議頂かないといけないような、予算付けの関係の説明などはございますか。

<事務局 上村>

前回の総合教育会議の中で「予算の最終の時期でもあるし、こういう取組についてはこの総合教育会議として重点的に取り組む必要があるのではないかとということについて、例えば予算付けについてどういう形ですのかとか、委員が気になるような施策があれば出していただければどうか」という確認だったと思えます。

<並河市長>

わかりました。あるとすれば、26 ページ、27 ページに書いてあります、その地方創生の重点施策についての部分は「各校に投げていくのではなく、我々の方でしっかりと取り組んでいって」というのがありますが、ちょっと私の日程もあって、うちの中でまだ十二分になっていませんので、次の会議で、またこの部分のご意見をいただいて、ということでもよろしいでしょうか。教委の方はどうですか。

<事務局 教委>

結構です。

<並河市長>

もし、この重点施策について、これは先に言っておきたいとか、そういったことがございましたら、ご意見を承りたいと思えますがいかがでしょうか。図書館関係とか、特別教室の開放とか、我々の方でもどういう形で安全確保するとか、どういうふうな仕組みで使ってもらうかというようなところは議論している最中です。また、子ども教室、土曜講座も具体的にどういうふうに進めるかということも検討している最

中でございます。学校教室そのものを使いたいという希望を私は比較的強く言っていますけれども、そこはどのような形で実施できるか、また教委の方とも詰めていかなければなりません。高校、大学連携はもうすでに進んでいっている所もあります。このあたりの連携ものというのは、国の方にも発信しやすいポイントなので、何らかに絡めて予算付けもしやすいものかなと思っております。これは、校内だけじゃなくて別に報道関係とかでもそういうのもいいです。バンビシャスだったら、今度、どこでやってもらうのでしたか。バスケットは。丹波市ですか。そういうところも本来、売りのポイントとして、「地域で今育もうとしているプロスポーツ」みたいなことと「それが学校現場とつながってやれてます」という部分なんかは、しっかり打ち出していきべきポイントになってくるかというふうに思います。ですから、かならずしも高校、大学だけでもない部分かと思えます。

<中嶋委員>

学童保育の件について、私も今、学童に関わってまして、天理市では、市立小学校の小学生と、天理小学校の小学生を受け入れていますが、子ども達は増えてきています。行政の担当は児童福祉ということですが、指定管理ということで、学童保育連絡協議会が受けています。ですので、当然と言えばそうですが、施設が狭かったり、古くなって来たり、という問題解決の交渉というか話し合いも、行政ではなくややもすれば学童がやっているところがあります。今後、やはり学校の方からの協力がなければ、学童保育の施設の充実というのは難しいものがありますので、全体の中で同じ天理市の小学生が、放課後に行く場所なんだというところでは、配慮をお願いします。

<並河市長>

仰るとおりです。国の方からも相当強く通達が何回も来ていますので、全体の流れとして「学校施設を有効活用して下さい」ということは、間違いなく示されているところです。その中で、天理市としては、またこれは議会の方にもご相談をお願いしないといけないところでもあります。来年度、丹波市小学校と山の辺小学校というところで取組が進みつつあるということでございます。ただ、天理小学校の保護者のみなさんからすれば、丹波市小学校というところについてご意見を承っているところでございます。ただ、子育て環境というような部分を考えれば、丹波市の子どもを追い出すということではなく、そっちはそっちでちゃんと施設を整える。でも、うちとして準備できる場所というのは、今の学校施設有効活用という流れの中で言えば、丹波市小学校だろうという形で、今、議論を進めているところです。

<中嶋委員>

他の市町村からも「天理市行政は学童保育に理解があるので、うらやましい」という話はよく聞きますし、学童の方も「よくしていただいている」と仰っていますけれども、

実際にやっている中ではそういう議論や諸事情がありますので。

<並河市長>

子どもの経過が変わるということもありますし、安全確保の問題というところもあるので、そこは、しっかりとご意見、コメントは伺いながら、できるだけ丁寧に説明をしていかなければいけないと思っています。

前川委員、この点はよろしいですか。

<前川委員>

天理小学校は土曜日やってるなど、公立とではカリキュラムが違うなど、いろんな違いがあるので、受け入れる方は大変かなと感じています。

<並河市長>

施設ものというのは、連携してまとめた方がいいので、ぜひプラスの発想で。

<森継教育長>

はい。

<並河市長>

今、樫本の方はどうですか。実際に会議室の方を使っていたかのような形で。特段、その後、問題等は生じてはないですか。

<事務局 吉岡課長>

学校の方からは聞いていません。

<並河市長>

もともと懸念されていた動線の切り分けだとか。

<事務局 吉岡課長>

それも、スムーズに。

<並河市長>

うまくいっているということですね。

<竹株教委事務局長>

学童の指導員の経験者の人が、たまたま学校との調整役を担っていただいていますので、その支援員の方が樫本小学校のいわゆるスクールサポートにも入っているというこ

とで、学校の実態もよくご存知ですし、学童とも兼ねているということを校長先生からも聞いています。それはひとつのいい事例かなと思います。

<並河市長>

そうですね。来年度の山の辺や丹波市にだったりとか、その辺の経験を活かしていただけるようにしていただければ。

ということでございますが、ここまで、ほぼ案件2まで終えて、3についても、ほぼ話はしたかなというところですが、事務局の方からどうですか。何か、ございますか。特に次回はいつやるのかとか。

<事務局 上村>

教育長が仰ったように、年度末までの取りまとめということですので、具体的な調査時期については、教育委員会と相談をしながらしていきたいと思いますが、大きくは年度末までにはまとめていきたいということで、次回の総合教育会議につきましては、年度開けて、4月早々にその資料も出しながらもっていきたいと考えています。

<並河市長>

せっかく年度内に取りまとめるのに、明けてからですか。

<事務局 上村>

年度内に取りまとめて、資料を作っていると4月の頭は超えるかと思います。

<並河市長>

事務作業的な事はわかりますが、別にきれいにまとまってなくても、せっかく意識をもって教育長が来年度の取組のために年度内にまとめると言っていたのだったら、「こういう感じでできてます」という現状でいいので。でていたやつをきれいに資料として加工してといういろんな事務作業の時間を考えるとそのタイミングではしんどいのはわかるんですけども。

<森継教育長>

僕は「(年度内に) 作ってほしい」と言いますが、可能かどうかまでは確約できません。ただ、スタッフが変わりますので、微調整が入ってくると思うんですよ。だから、年度変わってしていただくほうが、確実だと思いますけれども。

<並河市長>

他にご意見等、ございましたら。

形式的にきちんと会議ができることよりも、実質的に議論できる状態にさえなってい

れば状況は問わないと。提出されたものをただガシャンと止めていただくだけでも、全然かまわないと思っておりますが。年度明けでもよろしいですか。

<中嶋委員>

教育長のお考えは、一応学校側から年度内に一旦は回答ということですよ。

<森継教育長>

そうすべきだと思います。ただ、今日、言ってみないとわかりません。課長はどうですか。可能ですか、難しいですか。

<事務局 吉岡課長>

その辺が僕もね、初めてのことなので、学校現場がどうだろうかということで。人事でバタバタするということもありますので、一応、来年度の教育課程の方は2月の末に各学校から出てくることに毎年決まっています。それプラスこれということですから、3月に出てきたとしても、まとめてやるには微妙なところで、やっても最終段階、3月の末かと。

<名倉委員>

やはり出てくる意見とか進捗状況とかは、早い方がいいと思いますが、やはり人事やある程度の体制は4月でないと整わないですよ。ここの会議で話し合ったことをまた戻すわけですから、その場合は4月でないと、その戻ってきたのを、検討するのなかなか難しいと思うんです。

<並河市長>

一理ありますね。

<名倉委員>

ここの話し合いはいつでもできます。でも、それを有効的に戻して検討するには、どう考えても4月じゃないと無理かなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

<並河市長>

非常に筋の通ったお話だと思います。

ということでございますが、4月の開催ということでよろしゅうございますか。

はい、ということでございます。その他でございますが、何かございますか。流れの中で、案件1、2、3と話し合っていました。



<森継教育長>

表記ですけど、22 ページの(2)の④の一番最後の行ですけれども「校庭の芝生化」なんですけど「園庭」も入れとかなくてよろしいですか。

<並河市長>

「教育施設の」にしましょうか。

それは、学校現場、その他の状況を聞かせていただいたところからすると、維持管理のことからして、また、芝で走りまわったりすること自身が、いろんな教育上の成果、効果も高いだろうという事からすると、今、園の方で考えております。山の辺の方向でよろしいですね。一番、見えやすくインパクトがあるところはどこだろうと、園の形状とやりやすさからして。いい事例を作って、次どういう展開にしていくかは、また今後の相談だと思うんですけども。

<森継教育長>

で、どう。

<並河市長>

「教育施設の」でいいんじゃないでしょうか。

<森継教育長>

教育施設の芝生化？

<並河市長>

「教育施設内」でいいんじゃないですか。

<森継教育長>

わかりました。

<並河市長>

細かいご指摘で。

<森継教育長>

今、気づいたんですが、もう少し細かいところで「取り組み」という字が違和感をもちます。名詞の方は「り」と「み」がいらないと書いてある。

<並河市長>

おまかせします。

<藤井副市長>

名詞形の場合は送り仮名ありません。

<並河市長>

よろしいでしょうか。ありがとうございます。めずらしく予定通りに収まったかなというところでございます。そしたら、名倉委員の貴重なご意見をいただきまして、4月目処開催ということで。また、書類ベースではご連絡、ご報告等することがあるかと存じますが、よろしく申し上げます。では、教育長、よろしく申し上げます。

<森継教育長>

はい。

<並河市長>

今日は、大変お忙しい中、ありがとうございました。

<事務局 木村>

それでは、本日はどうもありがとうございました。本日、ご教示していただきましたものについて、また取りまとめをさせていただきながら、4月に次回の日程の調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日は、時間通りということで誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げまして、本日の会議をこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

(10時45分終了)